



テーマ：公共投資の動向（2009年12月）

発表日：2010年1月18日（月）

～09年10-12月期は横ばい圏内だが、10年前半は減少へ～

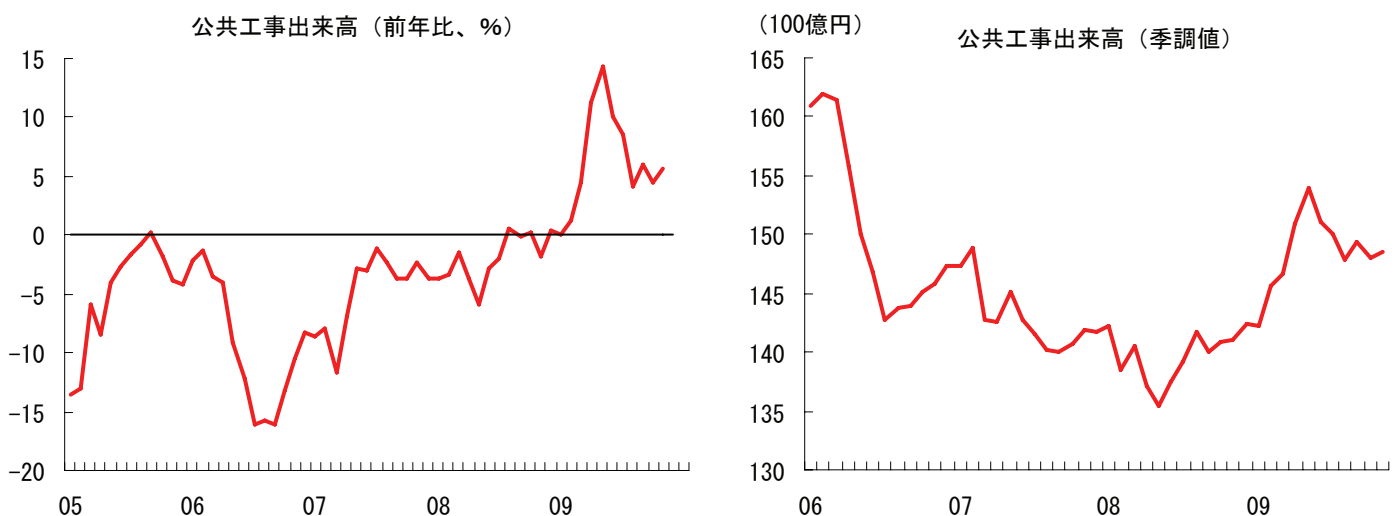
第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL：03-5221-4528

○ 10-12月期の公共投資は横ばい圏内の動きか

国土交通省から本日公表された建設総合統計では、09年11月の公共工事出来高が前年比+5.7%となり、10月の同+4.5%から伸びが拡大した。前年比では12ヶ月連続の増加である。また、季節調整済み前月比（季節調整は当社）では前月比+0.3%（10月：同▲0.9%）とほぼ横ばいとなっている。

09年10-11月平均の水準（季調値）は7-9月期を▲0.6%下回っているが、7-9月期が4-6月期比▲1.9%だったことに比べると減少幅は小幅なものにとどまっている。足元ではおおむね横ばい圏内の動きと判断してよいだろう。このように公共投資が足元で落ち込みを回避している理由としては、執行停止前に発注されていた09年度補正予算が進捗している可能性が挙げられるだろう。

公共工事出来高は工事の進捗段階の動向を表す統計であり、GDP統計における公的固定資本形成の基礎統計にもなっている。09年7-9月期のGDPベース公共投資（実質値）は前期比▲1.6%と5四半期ぶりに減少したが、09年10-12月期は横ばい圏内で踏みとどまる可能性がある。



○ 2010 年前半の公共投資は減少が予想される

公共事業の発注段階の動向を示す公共工事前払金保証統計（1月14日公表）によると、09年12月の公共工事請負金額は前年比+10.3%となり、11月の同横ばいから伸びが高まった。季節調整済み前月比（季節調整は当社）も+2.0%と、3ヶ月ぶりに増加に転じている。減少を見込んでいた筆者の予想と比べると、やや強めの結果である。東京都における請負金額¹が前年比+218%と急増するなど、一部で大型発注があったようだ。

¹ 東京都を工事場所とする公共工事。特に国からの発注が前年比+2388%と急増している。

もともと、12月の増加は10、11月の落ち込み分を取り戻せておらず、09年10-12月期は7-9月期対比▲5.2%となっている。均してみれば減少しているといつて良いだろう。振れが非常に大きい統計であることには注意する必要があるが、民主党政権発足後に09年度補正予算の一部執行停止が決定されたことの影響が出ている可能性がある。また、今後は09年度上半期に行われた09年度本予算前倒し執行の反動が出てくると、10年度予算でも公共投資の抑制が示されていることなどを考えると、公共工事請負金額は先行きも減少を続ける可能性が高そうだ。

公共工事前払金保証統計は公共事業の発注段階の動向を示す統計であり、建設総合統計やGDPの公共投資に3～6ヵ月程度先行する傾向がある。前述の通り、GDPベースの公共投資は10-12月期までは辛うじて減少が避けられる可能性があるが、公共工事請負金額の足元の動向を見る限り、2010年前半については減少する可能性が高い。

来年前半に予想される公共投資の減少がどの程度のものになるのかは、先行きの景気をみる上で重要である。公共工事前払金保証統計や建設総合統計の今後の推移に注目していきたい。

